

平成24年2月8日

四国地方整備局

土佐国道事務所

国道56号 河ノ瀬交差点<sup>ごうのせ</sup>における  
注意喚起対策の社会実験を実施します  
～ 「事故ゼロプラン（事故危険区間重点解消作戦）」の実施 ～

国道56号河ノ瀬交差点<sup>ごうのせ</sup>は、平成19年度に河ノ瀬高架橋<sup>ごうのせ</sup>が完成し、渋滞が大幅に改善されましたが、以前として死傷事故率が県内上位の交差点となっております。

当該交差点は、昨年度策定した「事故ゼロプラン」の事故危険区間にも位置づけられ、事故の多い西側流入部の横断歩道部において、車両と横断歩行者・自転車との接触事故を防止することを目的とし、横断歩行者・自転車感知式注意喚起システムの社会実験を下記のとおり実施します。（別紙1，2，3参照）

実験後は、実験結果を踏まえ横断歩行者・自転車感知式注意喚起システムの安全性効果を検証していく予定です。

## 記

○実験期間 平成24年2月13日（月）～平成24年2月15日（水）  
※予備日 平成24年2月16日（木）、17日（金）

○実験時間 7：00～19：00（12時間）

○実験場所 高知市河ノ瀬町<sup>ごうのせ</sup> 国道56号河ノ瀬交差点<sup>ごうのせ</sup>（詳細は別紙－1参照）

※取材にあたっては、現地担当者の指示に従って頂くようお願いいたします。

本施策は、四国圏広域地方計画「No.5 圏域の連携による発展に向けた地域力向上プロジェクト」の取組に関連します。

## 【問い合わせ先】

国土交通省 四国地方整備局 土佐国道事務所

電話（代表）088-884-0359

副所長 登坂 啓二 （内線）205

◎管理第二課長 田島 基彦 （内線）441

◎：主たる問い合わせ先

「事故ゼロプラン」対象区間

事故危険区間：国道56号 高知県高知市河ノ瀬町（河ノ瀬交差点）

現状

- 自動車交通量が県内第1位の交差点
- 利用者・住民アンケートで高知市内の危険な箇所順位第3位、死傷事故率県内第3位
- 交通事故多発交差点マップ（日本損害保険協会発行）でも県内第1位
- 交差点が大きく、右左折時の速度が早いため、自転車歩行者の巻き込み事故が多発



平面図

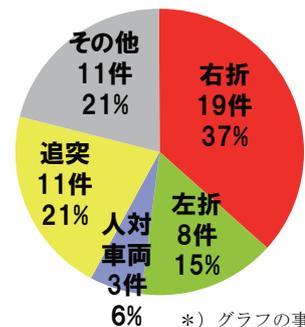


【道路現況】

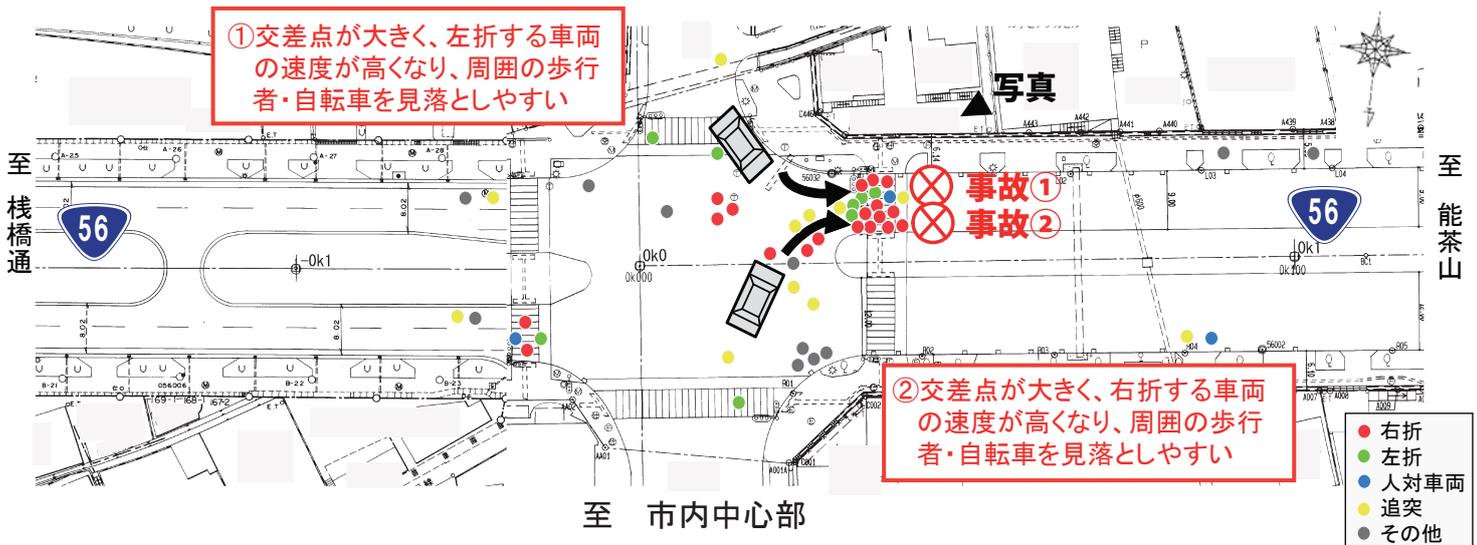
○死傷事故率	785.7件/億台km
○事故件数	49件/4年
○自動車交通量	54,913台/日
○自転車交通量	2,317台/12h
○歩行者交通量	170人/12h

\*) 事故率・事故件数：H17-20データ  
\*) 交通量：H17センサス

【事故類型】



\*) グラフの事故件数は、図中の区間で集計したもの



# 国道56号河ノ瀬交差点の注意喚起対策の社会実験概要

## ■実験の目的

国道56号河ノ瀬交差点(高知市河ノ瀬町)では、西側流入部の横断歩道部において、横断中の自転車と右折車の死傷事故が県内上位の交差点となっている。事故の発生要因として、横断歩道までの距離が長く右折車の速度が高いとともに、右折車線が2車線であることから併走右折車に対しても注意する必要があるため、右折車の横断自転車に対する認知が遅れ、減速が間に合わず衝突することが考えられる。

これを踏まえ、本実験では、国道56号河ノ瀬交差点の西側流入部の横断歩道部において、横断歩行者・自転車感知式注意喚起システムの安全性効果を検証する社会実験を実施するものである。

### システムの概要

本システムは、歩道手前側(南側)と中分側(北側)に設置したセンサーが通過した歩行者及び自転車を感知し、発光板とLED表示板を点滅させるとともに、通過人数の最後尾を感知して発光板及び横断中のLED表示板を消灯するシステムである。

### ■留意事項

- ①現場の状況に応じて発光板・LED表示板は下記事項に関して応用可能とする
  - ・発光輝度、速度、角度の可変
  - ・最後の通行人を感知して点滅から消灯までの点滅時間の調整
  - ・いずれも消音型発電機を電源とする
  - ・歩行人、通行自転車の妨げにならないように、配線類は被覆を行う。
- ②北側より南側へ進入するケースでは、センサーを中分側横断歩道の直近に設置せず、反対車線側の横断歩道付近に設置する。これにより、直近に設置するよりも発光時間が長く取れ、第3車線の右折車両に対して効果的に注意喚起する。

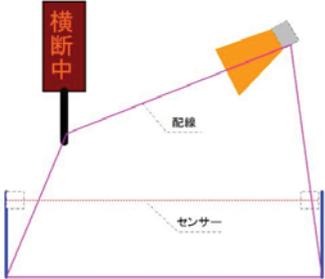


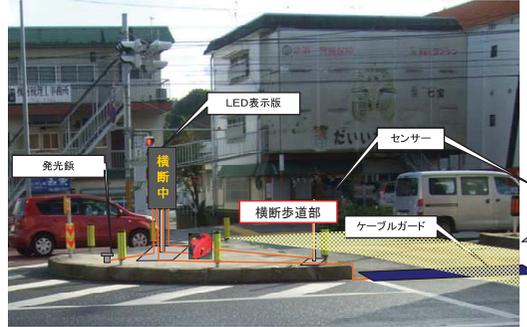
図-1 横断歩行者・自転車感知式注意喚起システムの概要

(全体図)



(北側) (南側)

(北側機器配置図)



発光板 LED表示版 センサー 横断歩道部 ケابلガード

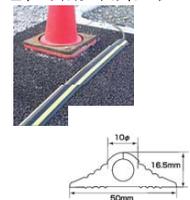
■発光板イメージ



■LED表示版イメージ



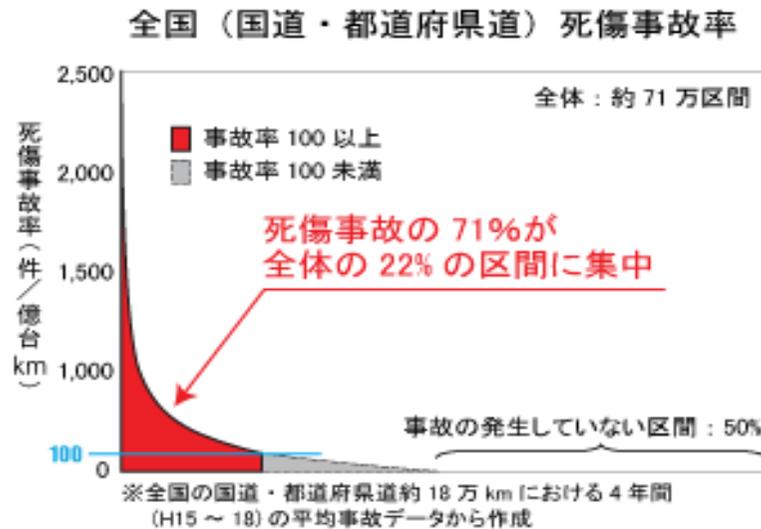
■ケابلガードのイメージ



・実験機器は基本的に交通島内に設置する。  
 ・センサーは向かい合わせで2本必要となり、ケーブルが歩道を横断する。このため、ケーブルはケابلガードで保護し、歩行者の邪魔にならないようする。  
 ・発電機は実験中のみ動作させる。

図-2 国道56号河ノ瀬交差点における機器配置図

## 【事故ゼロプランとは】



- 全国の幹線道路（国・都道府県）の 22% の区間に死傷事故件数の 71% が集中しています。
- 国土交通省では、このように危険な区間を市民の方々等からご意見を頂きながら『事故危険区間』として選定（H22.12）し、市民に交通事故が起こりやすい危険な箇所として認識頂き、集中的・重点的に、悲惨な交通事故の対策に取り組む「**事故ゼロプラン（事故危険区間重点解消作戦）**」を展開しています。
- 国道56号河ノ瀬交差点については、事故危険区間の区間事例として国土交通省 土佐国道事務所のホームページに掲載されております。（別紙-1）  
<http://www.skr.mlit.go.jp/tosakoku/>